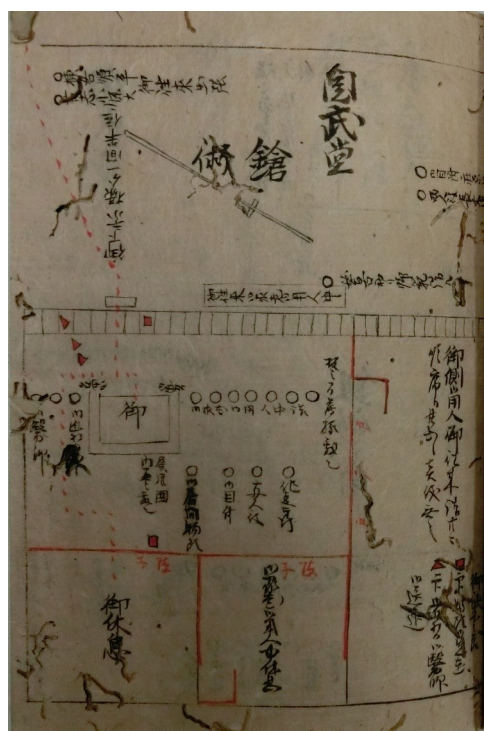
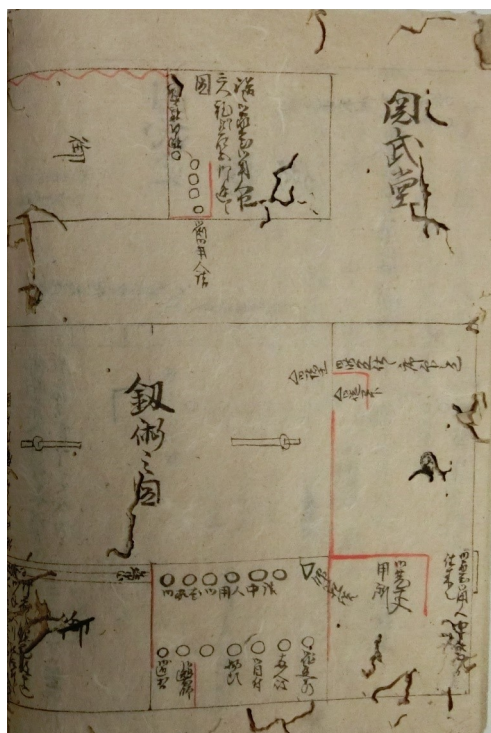




「諸芸術上覧之覚」（徳山毛利家文庫「学館」105）



➤ 7

きたえる 7

徳山藩主の武芸上覧（3）

《春の上覧》

ここでは、文化8年(1811)1月28日から閏2月22日の間に断続的に行われた藩主による上覧の記録「諸芸術上覧之覚」を見てみましょう。

「諸芸」とあるように、藩主上覧には武芸のほか、文学や礼法なども含まれていました（→シート5参照）。このうち、武芸については、2月9日から行われています。会場は、剣術と鎗術は「閑武堂」、砲術は秋の武芸上覧と同じく遠石浜、射術は射術場となっています。剣術と鎗術の披露の場となった「閑武堂」は、徳山藩の藩校である「鳴鳳館(めいほうかん)」の一角にある建物と考えられます。

この資料に基づいて、春の上覧の様子を見てみましょう。

《剣術・鎗術》

この時、剣術の上覧は2月9日、鎗術の上覧は11日に行われています。この春

の上覧については、シートNo.5やNo.6で使った徳山藩の記録(「御居間日記」「記録所日記」)には極めて簡略にしか書かれていません。一方でこの資料には、当日の細かな様子が記されるほかに、図入りで解説が付され、視覚的に状況が把握できるものです。例えば上の写真。右が鎗術、左が剣術の上覧時の様子を図示したものです。藩主はもちろん、家老や用人など藩の重職たちが一同に揃う、一大イベントの様相を呈しています。また、図によれば、剣術は相対して武芸披露を行っていたことが窺えます。

《弓術》

弓術の上覧は閏2月22日に行われました。この時も秋の上覧同様、ひとり2本ずつ射っていたようです。

この時は他の競技者に交じって、徳山藩8代藩主毛利広鎮が木梨与三郎の射術を特に所望したことから、与三郎も腕前を披露しています。彼は萩において射術の



「諸芸術上覧之覚」
(徳山毛利家文庫
「学館」105)

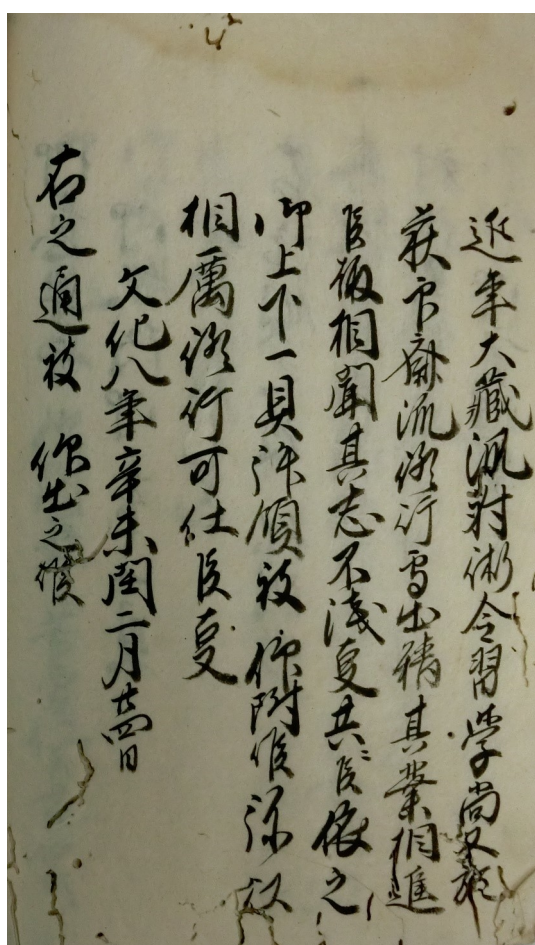
文化8年春に行われた諸芸上覧の記録。武芸以外にも、儒学講釈や礼法の上聴・上覧がありました。会場は藩校「鳴鳳館」です。

稽古を積み、この上覧後、ほどなくして藩主からの褒賞を受けています。この日の天候は雨。そのような中でも抜群の冴えを見せたその技は、藩主の御意に叶うものだったのでしょう。

《上覧を終えて》

射術の上覧をもって、この時の一連の上覧は終了しました。そして閏2月28日、広鎮は参府のため江戸へ向かいました。

藩主の上覧は、藩士の武芸奨励・武術向上の側面がありました。特に春の上覧は、参勤を前にして藩士の意識の引き締め目的もあったのかもしれません。そうした武が前面に出る一方で、藩主の所望による武芸披露もあることから、藩主の楽しみも含まれていたように思えます。



右之通被 仰出之候、

文化八年辛未閏二月廿四日

相属修行可仕候事、

御上下一具拝領被 仰附候、弥以

候趣相聞、其志不淺事共二候、依之

萩印齋派修行專出精、其業相進

近年大蔵派射術令習学、尚又於

御書附写

射術出精之趣二附、御書附如左、

一、文化八年辛未閏二月廿四日、同人倅為忠江

徳山毛利家文庫「譜録」437木梨三郎より。文化8年閏2月24日、木梨為貞の子息・為忠（与三郎）

が、大蔵派と印齋派の射術をよく学んだことに対して、褒美として「御上下一具」が与えられています。大蔵派・印齋派(印西派)ともに、日置流という弓術の一派です（太字が写真部分）。